

研 究 業 績 一 覧 表

令和 7 年 8 月 30 日

氏 名 張 允 麿

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概要（共著者名等）
著書 『コミュニケーション韓国語聞いて話そうⅡ』	共著	2016 年 4 月	白帝社	長谷川由紀子共著、B 5 判 全 12 課、総 180 頁 大学生が実際に直面しそうな場面やテーマをめぐり、コミュニケーション能力を高める目的の教材である。
『マレバヨ韓国語初級』	共著	2020 年 3 月	白帝社	長澤正治共著、全 24 課、B 5 判 総 120 頁 大学の教養科目としてすぐ話せる学習を目的にした教材で、留学生のためにすべての漢字にフリガナがあり、介護や保育、食品栄養に関する用語やフレーズも構成されている。
学術論文（査読有）				
1. 日帝植民地時代の在日朝鮮人の文学 — 張赫宙を中心に—	単著	2006 年 2 月	佐賀大学大学院 教育学研究科	修士学位論文、総 113 頁 植民地時代の在日文学と媒介を調査し、とりわけ張赫宙文学における再評価の必然性を考察した。
2. テキスト構造にみる「深淵」—「深淵の人」と張赫宙—	単著	2008 年 3 月	九大日文 第 11 号	pp52-69（査読有） テキストに表れる深淵を通して作者の創作活動における深淵を考察した。
3. 朝鮮人農民の夢と涙—『開墾』の万宝山事件を中心に—	単著	2008 年 11 月	近代文学論集第 34 号	pp83-93（査読有） 朝鮮農民の移住経路と定着過程において満洲という空間がもつ二層構造を考察した。
4. 植民地期における「内鮮結婚」の実体—「秘苑の花」と「虹を架ける王妃」を通して—	単著	2009 年 12 月	国際言語文学第 18 号	pp137-189（査読有） 日本と朝鮮の政略結婚と言われたものが実際一個人としての愛情からなされ、政略結婚が残したものは二人の息子晋の犠牲であることを論じた。
5. 朝鮮戦争をめぐる日本とアメリカ占領軍—張赫宙『嗚呼朝鮮』論	単著	2010 年 6 月	社会文学第 32 号	pp157-171（査読有） 朝鮮戦争における帝国主義

6. 張赫宙文学における失郷民—『開墾』と「第二の鯨」を通して—	単著	2011 年 4 月	敍説 III-06	の記憶とイデオロギー対立から逃れようとする登場人物を通して連鎖する帝国に対して批判的であると論じた。 pp55-73 (査読有) 朝鮮農民の開拓民と日本の開拓民がもつ類似点を考察することで失郷民の表象を論じた。
7. 「張（野口）赫宙の日本語文学における弱者—中間者たちの軌跡—」	単著	2016 年 5 月	九州大学大学院 比較社会文化	博士学位論文 総 356 頁 張赫宙文学において描かれている弱者の表象から逸脱する中間者の存在を見出し、各作品から登場する中間者が終戦後の作家自身のアイデンティティに近づいていると論じた。
8. 言語・文化融合型テキストを用いた主体的な学びに関する思考—韓国語学習を事例に	共著	2020年3月	山口県立大学 国際文化学部紀要	pp43-54 (査読有) 語学科目における文化リテラシー学習のニーズ確認した上で、文化リテラシーの向上を目指すテキストづくりを通して育成する人材像の変化に対応できる実践教育を論じた。
9 オンラインによる韓国語教育におけるアクティビティの実践報告	単著	2023 年 3 月	佐賀女子短期大学 研究紀要第 57 集第 2 号	総 180 頁の pp101-112 韓国語の 4 技能科目において実施したオンライン授業の形態を考察し、対面授業でも実施できるアクティブラーニングを研究した。
9. 日本における韓流と OTT の登場：文化的影響力と相互関係	単著	2024 年 3 月	佐賀女子短大研究紀要第 58 集第 2 号	日本における韓流が受け入れられることに貢献した OTT プラットフォームの種類とその関係性を考察し、今後の展望を論じた。
11 AI 教育ツールが変える韓国語授業の未来：ChatGPT を用いた韓国語授業の事例研究	単著	2024 年 9 月	佐賀女子短大研究紀要第 59 集第 1 号	pp59-80 ChatGPT を用いた韓国語学習の効果を分析し、その結果に基づいて AI 教育ツールの効果と課題を考察した。
12 多言語演劇の手法を活用した多文化理解と言語学習カリキュラムの実践研究	共著	2025 年 3 月	グローバル人材 育成教育研究 第 12 巻第 2 号	pp32-41 (査読有) 本論文は、多言語演劇活動を通じた異文化理解教育の実践的効果を検証したもので、多国籍グループでの協働により言語学習意欲が高まり、ミャンマー語を含む多言語教育の新たな可能性が示された教授方法の実践

書評及び書誌 13. 旧日帝時代「朝鮮」作家・金南天作品「姉弟」「灯かり」翻訳 14. 小説公園総目次（上） 15. 小説公園総目次（下） 16. 小説公園総目次 人名索引 17. 新資料・張赫宙草稿「朝鮮八割・日本二割の取材」の紹介ならびに解説 18. 「李王家悲史 秘苑の花」解説	共著	2005 年 12 月	佐賀大國文 34 号	で、今後は長期的効果の追跡調査と継続的実践による教育的成果の深化が展望できることを論じた。 pp38－61 植民地時代の金南天作品「姉弟」「灯かり」の翻訳と紹介した。
	単著	2007 年 8 月	敍説Ⅲ－01 号	pp257－280 張赫宙の作品を発掘するために行った調査したものを総目次に作成した。
	単著	2008 年 2 月	敍説Ⅲ－02 号	pp217－249 張赫宙の作品を発掘するために行った調査したものを総目次に作成した。
	単著	2008 年 12 月	敍説Ⅲ－03号	pp158－172 張赫宙の作品を発掘するために行った調査したものを総目次と人名索引を作成した。
	単著	2012 年3月	九大日文第19号	pp64-72 張赫宙の草稿から読み取れる朝鮮と日本の文化的な混濁性をもつアイデンティティの生成過程を窺えると解釈した。
	単著	2014年6月	共栄書房	総282頁のpp271-280 この作品が創作される当時の背景と目的を紹介し、作品の中に埋め込まれた弱者の表象を解釈した。
その他講演会 1. 韓国人の名字と名前から韓国文化を覗く 2 朝鮮文学と日本 学会発表 1. 日帝植民地時代の両国文学における協力と抵抗―日本と朝鮮	単独	2016 年 10 月 27 日	久留米大学公開講演	韓国の名字と名前、改名制度の簡略化を紹介し、コンテンツ資料から確認できる改名や整形ブームで見られる韓国人の儒教的考え方について講演を行った。
	単独	2018 年 6 月 7 日	久留米大学公開講演	朝鮮文学における日本文学との接点を紹介しながら、植民地時代の朝鮮文学の特徴と文学史の意義について講演した。
	単独	2005 年 10 月 22 日	佐賀大学国語国文学会	日帝植民地時代の両国文学

2. 張赫宙と中島敦の朝鮮	単独	2005 年 11 月 12 日	日本近代文学会九州支部秋季大会（査読有）	において協力と抵抗の側面からそれぞれの特徴を考察し発表した。
3. 研究報告 張赫宙の『無窮花』を読む	単独	2006 年 7 月 15 日	日韓フォーラム	張赫宙文学と中島敦文学における朝鮮像を考察する発表
4. 張赫宙作「深淵の人」ー深淵の行方	単独	2007 年 10 月 6 日	第 6 回九州大学日本語文学会（査読有）	テキストにおけるイデオロギー対立から見せる他者性について発表
5. 朝鮮人ディアスポラの夢と涙ー『開墾』の万宝山事件を中心にー	単独	2008 年 6 月 14 日	日本近代文学会九州支部春季大会（査読有）	テキストに表れる深淵を通して作者の創作活動における深淵を考察する発表
6. 植民地期における「内鮮結婚」の実体ー「秘苑の花」と「虹を架ける王妃」を通してー	単独	2008 年 11 月 13 日	第 13 次国際言語学会学術（韓国、査読有）	朝鮮人農民の移住経路から窺えるディアスポラの表象を考察する発表
7. 授業で実践したアクティビティの紹介ー自己紹介のアクティビティ	単独	2010 年 8 月 28 日	第 15 回福岡韓国朝鮮語研究会	日本と朝鮮の政略結婚と言われたものが実際一個人としての愛情からなされ、政略結婚が残したものは二人の息子晋の犠牲あったことを考察する発表
8. 張赫宙文学におけるディアスポラの表象ー『開墾』と「第二の鯨」を通してー	単独	2010 年 10 月 16 日	東 ア ジ ア 学 会 学会設立 20 周年記念大会（査読有）	自己紹介のスキットのグループ対グループ練習の効果とワークショップ
9. 「断崖」という媒介物ー張赫宙文学のディアスポラへの接近過程を読む	単独	2011 年 10 月 1 日	第 10 回九州大学日本語文学会（査読有）	朝鮮農民の開拓民と日本の開拓民がもつ類似点からディアスポラの表象を見出し、張赫宙文学における一つの連続性を考察する発表
10. スマートフォン・タブレットを用いる副教材作成	単独	2014 年 10 月 18 日	第 32 回福岡韓国朝鮮語教育研究会	張赫宙文学における諸作品における「断崖」というキーワードがもつ意味を考察する発表
11. 対人コミュニケーション能力向上の実践教育（その一）ービデオ作成を通して	単独	2016 年 12 月 18 日	朝鮮語教育学会第二言語習得論分科会	仕事効率を高める音声認識アプリを使うドリルシート作成と 3D アバター作成を用いる副教材作法を発表
12. 張（野口）赫宙文学における朝鮮戦争小	単独	2018 年 10 月 7 日		グループ活動を通してビデオ作成した実践教育例を挙げ、その結果としてコミュニケーション能力向上に至った経緯を報告する。また、この活動に教師に求められる事前説明と五段階で行われる詳細と問題点に携わる。

説の「中間者」とアイデンティティの表象			第 69 回 朝鮮学会大会 於、天理大学	権力構造から発生する「中間者」の存在が必然的であるかを考察
13. 日本の大学生がもつ韓国への関心及び韓国語学習ー文化リテラシーの向上を目指すテキストづくりー	共同	2019 年 9 月 21 日	第 57 回韓国日本文化学会秋季国際学術大会 於、韓南大学校	語学科目における文化リテラシー学習のニーズ確認した上で、文化リテラシーの向上を目指すテキストづくりを通して育成する人材像の変化に対応できる実践教育を発表。
14. 多言語演劇の手法による多文化理解を軸とした言語学習カリキュラム開発研究	共同	2024 年 2 月 24 日	グローバル人材育成教育学会 学会設立 10 年記念第 11 回全国大会	多言語（英語・韓国語・日本語・ミャンマー語）演劇の手法を活用した授業実践を通じて、多文化理解を軸とした多言語学習のカリキュラムをする。演劇の手法では、学習者は言葉の意味を体感し、言語を通じての多文化理解の可能性に気づくと考えられる。本テーマを基に開講している授業では、日本人、韓国人、ミャンマー人が受講している。今回の発表では、事前アンケートの分析と授業実践の内容について、学生に及ぼす効果検証の観点から報告をする。
15 多言語演劇の手法を活用した多文化理解と言語学習カリキュラムの実践研究（2）	共同	2025 年 2 月 9 日	グローバル人材育成教育学会第 12 回全国大会	昨年度の反省を踏まえた改善内容を実施した。しかし、物語の結末にとどまらず、高度なアレンジを加えることを促した結果、台本作成に時間を要し、一部のグループでは練習やリハーサルに十分な時間を確保できなかった点が課題として挙げられる。この問題を回避するためには、学生が計画的に進められるよう、教員が進捗を細かく確認し、適切に指導する必要があったと報告した。